

水嵩が増し、きびしい表情に豹変した

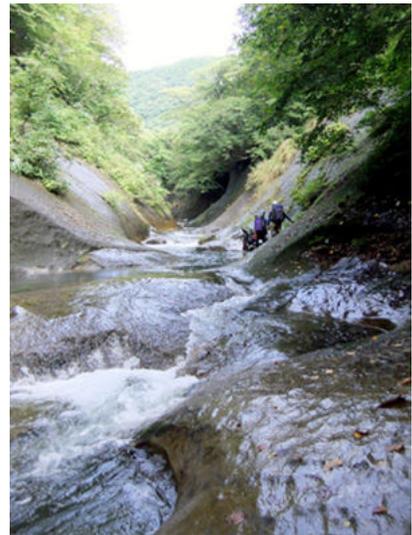
## 二口山塊・大行沢

高橋

【日時】 2010年9月18日(土)～19日(日)

【メンバー】 L高橋、山口、渡辺、國田、金沢

この3連休に「八幡平の葛根田本流」に行こうと計画。トマのはじめての会山行で辿ったルートを今度は2泊3日でゆっくり自然に浸りながら再現しようと思った。この後も葛根田～大深沢周遊の旅にと「滝ノ上温泉」まで入ったが、生憎の増水で温泉の素泊り小屋に釘付けされ、結局、翌日も水が引かず已む無く「二口」に転進した覚えがあった。今回のメンバー3人も昔のままの顔ぶれで楽しい山行になりそう。ところが出発時の天気予報が悪化し、丁度「岩手」付近に秋雨前線が停滞するという。特に中日・日曜の雨の確率が高い……。已む無く、17日の夜集合時に又もや「二口山塊」に転進する事に決し出発した。交代で運転を代わりながら、2時過ぎに「大行沢」横の駐車場で仮眠。8時過ぎ、ノンビリ出発する。足を踏み入れた沢は何となく水量が多く出だしから足を攫われそうな流れだ。



この先、如何にも東北の溪らしさが現れホッとすが、束の間すぐ目の前にあの印象深い、兩岸ツルツルの壁を持ったスラブ壁が現れた。嘗ての印象では、V字型のスラブの真ん中に水溝が掘り入れ、流水はそこだけで、兩岸のスラブの所々にステップが切ってあって、楽しく通過できる印象が強かったのだが？今回は水溝のかなり上まで水が来ていて、ステップが隠されているし、このところ長雨が続いたのか、スラブには薄っすらとコケが張り付き、ヌルヌル感が増していた。渡辺さんがトップを切り國田・金沢・山口と続くが、写真を撮ながらの私は核心部のへつりを見ていなかった。「こんな箇所をどうやって？」へつり方法が思いつかないまま頭の上の草を掴んで強引に足をステップに下ろそうとした時案の定、足が滑った。ドボン。足の着かない水溝に滑り落ち泳げない惨めさ。3分間のパニックに陥る渡辺さんが戻って「お助け紐」で引っ張り上げてくれた。買ったばかりの「デジタルカメラ」が心配、すぐに点検するが、二重にパッキングしていたお陰

で、難を免れたようだ。ただ、荷物のパッキングを油断して杜撰にしていた為、水没ですっかり重さが増してしまった・・・(こんなところで)落ちるなんて全く想定外の出来事「随分力が落ちたものだな・・・」と落胆しきりだ。

振り出しの「太行沢橋」まで戻り、登山道からこのゴルジュをパスする事にした。たとえ私が落ちた箇所が通過で出来としてもその先のヘツリは、泳がなければまず無理だったろう。「大東岳・東コース登山道入口」から沢沿いの道を30分ほど歩き、頃合を見計らって再び溪に降る。

沢に下りてみると予想以上に多い水量に、これがあの太行沢？と我が目を疑うほどの落差を感じたのだった。腰上から一部淵を泳いで向こう岸に辿り着く場面も出て来た。こんな時活躍したのが若手・金沢君だ。年寄り2人は渡辺・金沢君の出してくれた「お助け紐」のお世話になること再三再四。感謝感謝である。



淵を渡る山口さん。お助け紐で引張り上げるのも一苦勞 両岸柱状節理の大岸壁が立ち塞がる溪相を進む

暫くしてあの恐怖の「巨岩帯」入口に…。この試練を乗り越えて初めて「天国のナメ」が味わえるのだが。



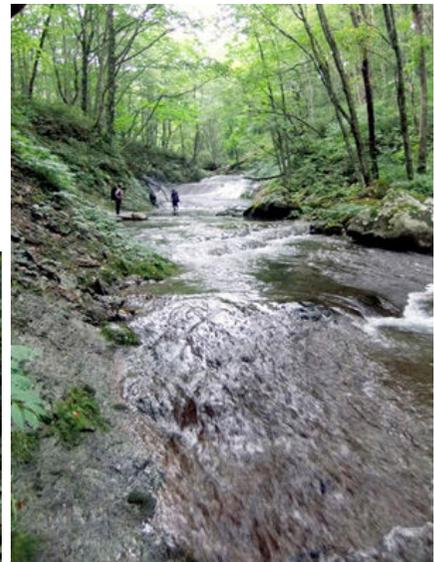
股関節が柔らかい国田嬢には何でもない大岩乗り越し・・・が年寄りにとっては苦行悪行の連続…

「梯子滝」は上段・下段とも飛び散る落水に直登など思いもよらない程だ。平水時は楽しくリードできる滝もこう水が多くては・・・。渡辺さんが滝の右から小さく巻こうと泥壁を登り始めるが、「空身でも大変。荷を背負ってはセカンド以降は無理だ」と戻って来る。仕方なく戻って「登山道」まで登り、先に進む事にする。ブッシュを掴みながらの高巻きを約70m以上して尾根に這い上がる。途中あるだろうと思っていた「登山道」にぶち当たらないというわけだ？

道が付け替えられたのだろうか？既に時間的にも3時半。幕張りの準備をする時間だ。偵察の結果、此处から少し先に行って下った「支沢」沿いの絶好の平坦高台に幕営地が見つかった。

9月19日（日）曇り

幕場から尾根の中腹に付けられた「登山道」を辿って、「梯子滝」上の巨岩帯をパス。頃合を見計らって「ナメ」が始まりそうな箇所から沢に再度降り立つ。「カケス沢出合」のかなり手前だった。なお、登山道は崩壊で沢沿いから尾根を越えた反対の尾根の中腹に迂回していた。今日は「カケス沢・左俣」を登る予定であったが、私の膝が芳しくない事もあり、この後は「釣り」を楽しみながら遡行して、「天国のナメ」を心ゆくまで楽しみ「避難小屋」上から登山道に戻る事にした。



漸くナメ床が顔を出し始めた…  
待ちに待った瞬間だ…。天気も  
って本当に良かった



私が釣ったまますサイズのイワナ君

「ハダカゾウキ沢」出合で。  
本流に懸かるこの滝の上に小屋がある

10月11日 鳴虫沢 國田 和江

「姉滝」の観光用遊歩道から二口本流に入る。ここで高橋さん（前日足を痛め不参加）と分かれるが、10時をリミットに引き返し、12時半～1時に戻るという約束をする。暫くで「鳴虫沢」出合。すぐに最初の滝が現れるが、登れず引き返すと出合の脇にハッキリした巻道が付いている。此処から先はずっと階段状のナメ。次々出てくる滝は所々高巻をしながらも難なく越えられた。すると、縦に割れた12m滝が現れた。ここは右から大きく高巻くが、この時点では何の問題も無かったものの、後で泣かされる場所になるうとは???その後溪相は急に変わり巨岩帯となる。それが並大抵な巨岩ではなく、岩の上には土が堆積し大きく根を張った巨木が自生しているような巨岩だ。長い年月の間に水流が山を削り取り残ったものではないか?此処を越えるのはナカナカ大変で、倒木も多く巨岩と巨岩の間の洞窟のような空間を泥だらけになりながら潜ったり、潜れると思いきや行き止りになり引き返して高巻いたり、まるで迷路のようであった。巨岩帯を越えると沢は現頭部の様相となり越え易い小滝となって来たので、このまま越えられるかと思っていた所で、急に核心部は現れた。流水の左にヤヤ新しいシュリングが3mほど残置されていた。渡辺さんがA0で登り始めるが、シュリングが途切れた中間部からがホールドが少ないようで苦戦。岩盤も脆いようで落石も多く、狭い岩壁の間に立っている私達も注意が必要だった。何とか登り切った渡辺さんがロープを出してくれたので、



続いて登ったが「フリーで行った渡辺さんは凄いな」と思わずにはいられなかった。

この核心部の滝で想定外に時間を要し、引き返す時間を裕に過ぎてしまっていた。少し先の地図上の P685 地点の二俣を左に行けば、すぐに稜線だろうということで、前に進むことになった。

この二俣の左俣は水流乏しく、一度見逃してしまっただが、引き返し遡行する。ツメは少しだけ藪コギとだったが、程なく稜線となった。稜線には道が付いており、登山道だと思われた。

ここから、家形山まで行けば、そこから尾根伝いに踏み跡があると予想し、この稜線を行く。

ところが、かなり進んでもその道は出てこなかった。家形山の古い道標跡も見つけ、このまま行くと三方倉山に辿りついてしまうと思われた。地形図には三方倉山から降りる道はない為、元来た道に戻り、鳴虫沢の右岸を尾根伝いに降りることとした。この時点で携帯の電波入ったので、高橋さんに電話入れるが、通じなかった。尾根を下り始め、暫くは藪を漕いで行っただが、途中で行き止まりとなる。切り立った崖下には沢が見えたので、この沢に懸垂下降で降りた。降りてみると、ここはさっき登った核心部の滝の下の支流だと分かる。下山時間予定をすっかり過ぎていたので、とにかく急いで下降するのみ。難儀だった巨岩帯にまたもや苦戦しながらもひたすら下降する。

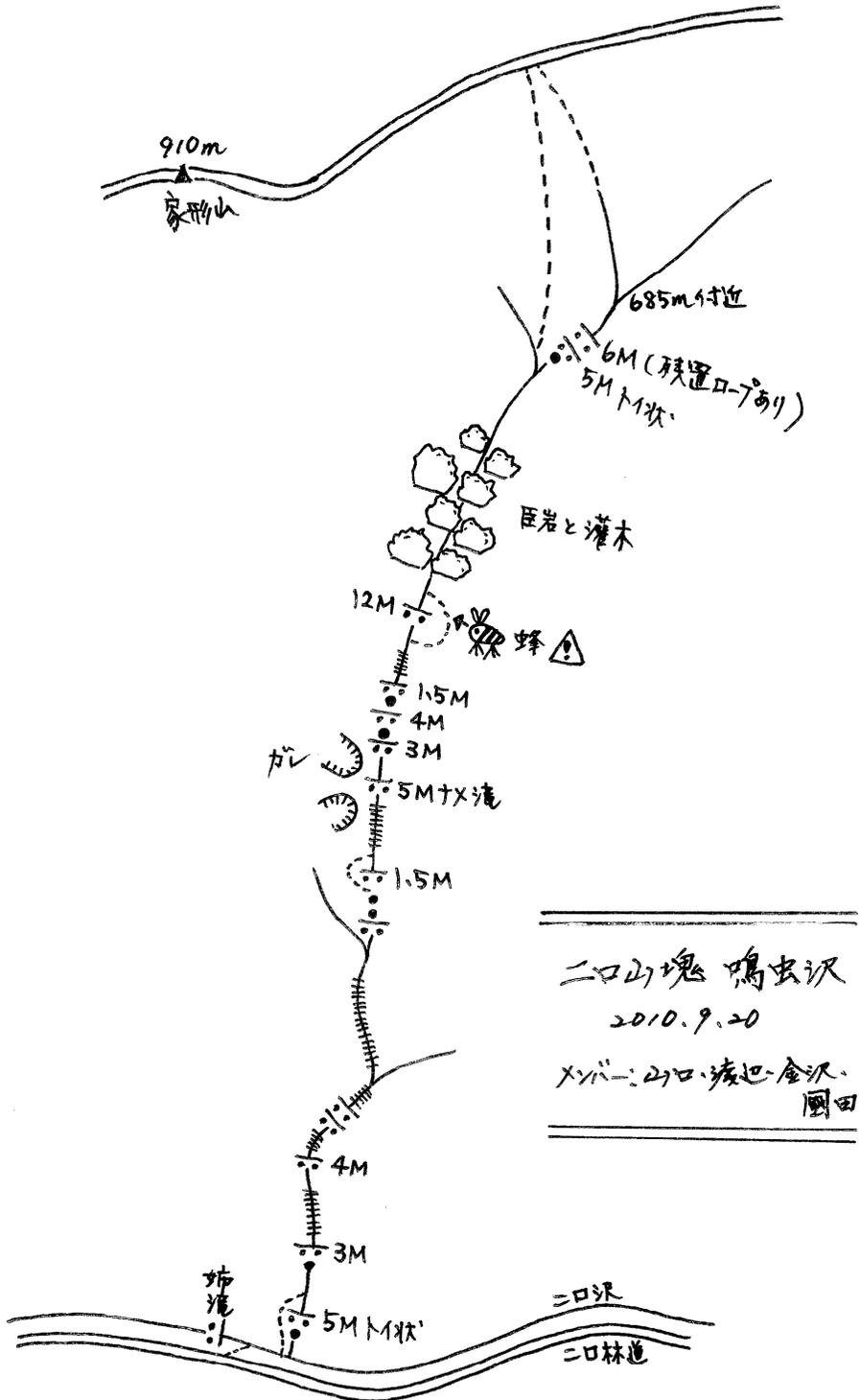
すると、登りではそれ程難しくなかった 12m 滝の巻きの途中で、泥壁をトラバースすることになり、渡辺さん、金沢君の後続いて行くと、身体に強烈な痛みが走った。気が付くと、自分の周囲にオレンジ色の大きな蜂がたかっている。強烈な痛みは数カ所となり、「痛い」と泣き叫びながら前の 2 人を追いかけていった。

本来なら、この時点で後続の山口さんに蜂がいることを知らせ、後から来ないように言うべきであったのだが半ばパニック状態になっていた為、山口さんを気遣うことが出来なかった。その為、山口さんは怒った蜂達にさらに多く刺されてしまったようだ。沢に降りてから、刺された箇所をポイズンリムーバーで吸い出して貰った箇所を洗うことは忘れていた。

その後は、痛みにも耐えながらも下降を続けた。少しすると、山口さんが気分が悪いと訴えたが、金沢君に一番最後になってもらい、そのまま下り続けた。鳴虫沢の出合に付き、二口沢を遡行していくと、遊歩道が見えてきた。すると、大きな笛の音が聞こえ、高橋さんが待っていてくれたと分かる。予定の時間にすっかり遅れてしまい、高橋さんを心配させてしまった。状況が分からず、予定時間を過ぎてからの心境は計り知れない。すぐに地元の病院を急患で受診し、鎮痛剤だけ処方されるも、この薬は殆ど効かなかった。

温泉には入らず、すぐに帰宅の途についたのだが、車中でも蜂に刺された箇所の激痛に耐えることとなり、やっと痛みが和らいだと思えたのは、刺されてから 5 時間位経った頃だった。蜂は、土の中に巣を作る大スズメ蜂だったと思う。アナフィラキシーショックを起こさなかっただけマシで、その後の激痛に苦しんだ 時間は長く、刺された手や腕がその後 5 日程パンパンに腫れたり、ヒドイ痒みを伴ったことは辛く、もう 2 度と刺されたくないものだ。

【行 程】姉滝(7:20)～鳴虫沢入渓点(7:36)～P685 の二俣(10:43)



二口山塊 鳴虫沢

2010.9.20

X-バー: 二口・猿也・金沢・  
園田